

ます。そのため拡大、縮小時または移動時には全データを読み込まなくても分割された容量の小さいデータを次々と読み込んでいくことから、非常にスピーディーな画面表示が可能になります。

### ビューアーインターフェイス設計について

現在WEB上で画像を閲覧するビューアーはオリジナルのビューアーから専用のパッケージビューアーまで多種多数あり、その中でも最も汎用的なビューアーとしてPDFを閲覧する「Adobe Reader」があるかと思います。今回の制作においてもビューアーの仕様決定には議論しましたが、ビューアーの最大の目的であるユーザ視点でみる“使い易さ”を考慮し、WEB技術の中でも汎用的なFLASHを使用したオリジナルビューアーを制作しました。

FLASHを使ったページは現在のWEBサイトで多くみられますが、その最大の特徴は表現力の多彩さにあります。今回のビューアーでもサブディスプレイ（現在見ている誌面が全体のどの部分を閲覧しているのかを表示）の表示/非表示の切替が簡単にできるように設定したり、ページをめくる感覚でページを前後できる機能、誌面を回転させる機能を設置したりと使用目的に応じて機能をカスタマイズして制作しました。また、このビューアー機能を決定するにあたり他大学、他機関の画像閲覧ビューアーを分析し、京都外国語大学の図書館の各収蔵品を画像表示するのに必要と思われる機能を付与していきました。さらに、誌面を大きく画面表示できるようボタンは下部に並べて配置し、できるだけ表示部分のスペースを大きくとるように設計しています。下部に配置することによって画面表示スペース、ボタンスペースが住み分けできるため画面構成が分かりやすく、ユーザビリティの視点からも評価できると思います。

### 画像閲覧ビューアーの今後について

最後に今後将来的な画像閲覧ビューアーのあり方ですが、正直なところ私自身も明確な回答もっていません。WEB技術の開発は今後も止まることなくさらに進歩し続けていくため、現状のFLASHによる画像閲覧ビューアーが将来不変的に



ベストであるということも考え難いと思います。

また、大容量の超高精彩のデジタル画像の拡大、縮小表示がスピーディにできることはもちろんその書籍に関連する記事、動画画像が相互にリンクされたり、さらに、モバイル端末でもPC端末同様に画像の表示、コメントの付与、データのメンテナンスなどが簡単に可能になることがあたりまえになる時期が来るのも速くないと思います。（一部は現在でも可能ですが）ただ、どんなに技術が進化、インフラが整備されても、使い手が必要としないコンテンツを制作しては全く無意味なことになってしまいます。その技術を使ってどんなに便利で役に立つことが可能になるのか、またはこんな使い方、こんなツールがあったら便利だけど・・・というように使い手の視点からの発想が有益なシステム・コンテンツを生み出すと私は考えます。つまり高度な技術があったとしてもそれを使いこなせないのであれば宝の持ち腐れになってしまうということです。

今後も私自身WEBの制作に携わっていくことになると思います。得意先の要望を満たす制作物であることはもちろん、その一歩先である得意先のお客様（ユーザ）が満足、そして不特定多数の全てのユーザが「便利だな・役に立つな」と思えるコンテンツ制作が実現できるよう技術知識、世相見識力を養っていきたいと思います。

いうら ひであき